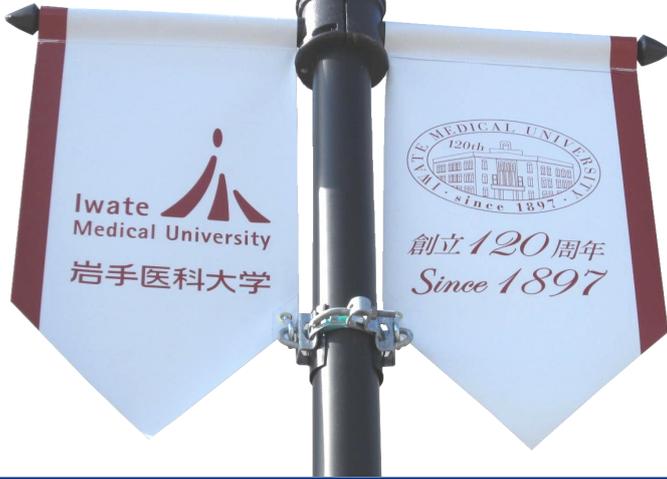


## 地域を彩る

## 創立120周年記念バナーフラッグ



来 年4月に迎える本学創立120周年、そして平成31年に控える矢巾新附属病院への移転を見据え、大学ブランドの強化を図るとともに、地域住民への広報展開の一環として、矢幅駅東口広場の照明灯7本に記念バナーフラッグを新たに設置しました。フラッグデザインには、ブルーとエンジを基調にシンボルマークと記念ロゴマークを配しました。いよいよ迎える記念すべき節目の年を盛り上げるべく、学内のみならず地域に根ざした広報活動を展開してまいります。

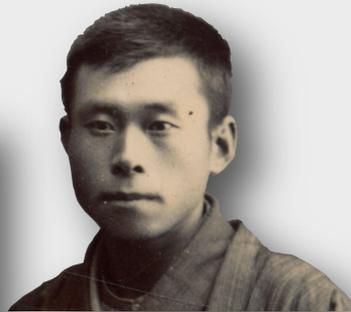
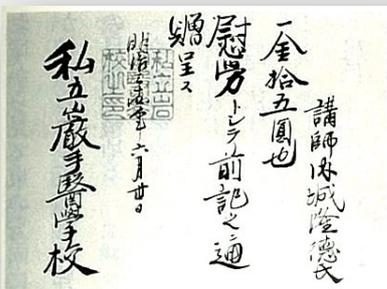
### 岩手の医学教育の黎明

**創** 設者 三田俊次郎は、明治30年4月20日、岩手県の医療貧困の救済と医療を支える医療人の育成にかける強い情熱から、私財を投じて私立岩手病院を開院し、同時に医学講習所・産婆看護婦養成所を併設、医師のみならず看護師・助産師の養成を開始しました。三田俊次郎と私立岩手病院副院長・三浦直道が岩手県に提出した報告書「岩手病院／岩手医学校／岩手看護婦養成所／岩手産婆学校／及ヒ其他ノ事業 十年間経営 概要報告（明治40年6月30日発行、岩手県立図書館所蔵）」によれば、明治30年開設当初の医学講習所の生徒数は3名、講義は主に私立岩手病院の医員（現・医師）が診療の傍ら講師を兼務していた他、市内の開業医や有識者も招聘し、医学教育の発展に努めていたと記されています。

### 医学講習所当時の国家試験

**当** 時、医師になるには「医術開業試験」という国家試験に合格しなければなりません。この試験は、前期試験と後期試験に分かれていました。前期試験は、物理・化学・解剖学・生理学、後期試験は、外科学・内科学・薬物学・臨床実験でしたが、合格するには「前期3年、後期7年」と言われる程、難関中の難関でした。前出「経営概要報告」によれば、医術開業試験に対応できる程度までの学説と実地を教授したとされており、医学講習所の出身者の合格率が高かったことから生徒数は年々増加、明治34年には県の認可を受け「私立岩手医学校」を設立、創立者の強い志の下、医師の養成機関として更なる充実を図ったのです。

### 私立岩手医学校の賞与辞令



私立岩手病院 内科医  
内城隆徳

明治33年11月採用。動物学・生理学・病理総論・診断学の講師を兼任。

写真提供：内城家

### 医学講習所開設から

#### 私立岩手医学校設立認可まで

明治30年4月	私立岩手病院開院
明治30年5月	院内に医学講習所を開設
明治33年2月	医学講習所を市内六日町（現・下ノ橋町）に移転
明治33年12月	医学講習所を私立岩手病院に戻し、岩手医学講習所と改称
明治34年5月	岩手医学講習所が私立岩手医学校として設立認可される



【発行・お問い合わせ先】

岩手医科大学企画部 創立120周年記念事業事務室

TEL：019-651-5110（内線：7022）

E-mail：anniv@j.iwate-med.ac.jp

WEB：http://iwate-med-120th.jp/

創立120周年まで

あと121日



岩手医科大学 発行年月日 2016.12.20